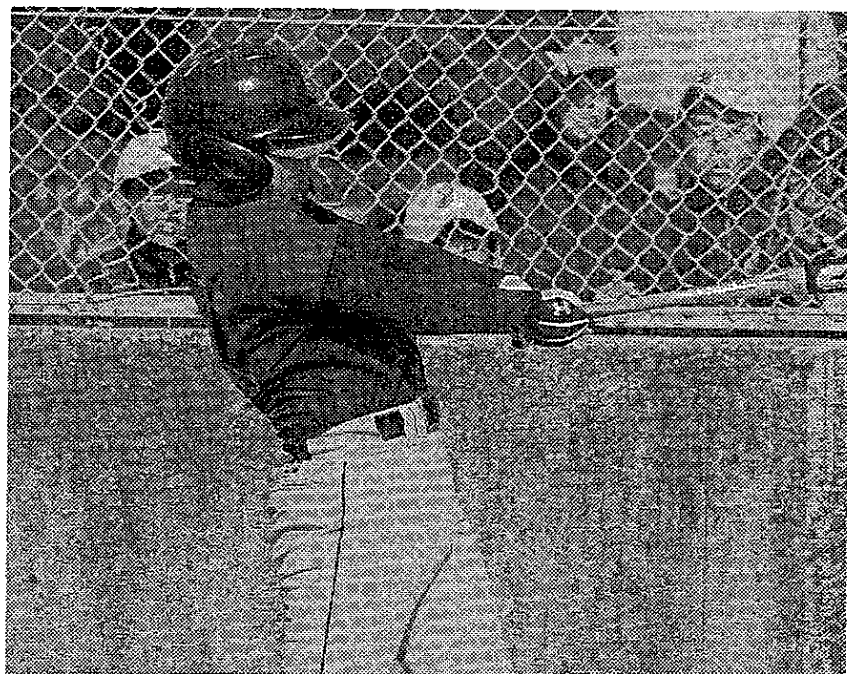


を実施。柏二中がストリート勝ちし、2位の座を守った。

決勝は光ヶ丘^V、四小地区

全日本学童軟式野球柏予選



準決勝で快音響かせた光ヶ丘の中野君

第34回全日本学童軟式

野球大会柏市予選と第37回関東学童軟式野球大会柏市予選を兼ねる大会は23日までに準決勝を終え、光ヶ丘シャークスと四小地区少年野球クラブが決勝に駒を進めた。決勝戦は30日、柏ビレジ運動広場で正午開始。優勝チームが6月1日開幕の全日本千葉県予選へ、準優勝チームが7月6日開幕の関東大会千葉県予選に出場する。

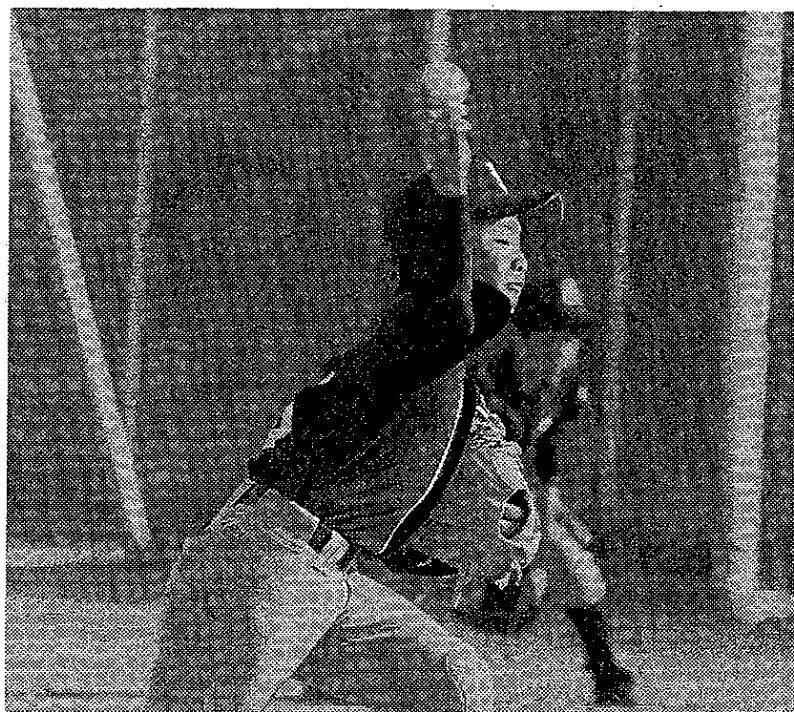
準決勝は光ヶ丘、四小地区ともに快勝を収め

た。光ヶ丘は柏リアノスと対戦し、2-2の3回裏に3番・杉嶋健吾君(11)の犠飛で勝ち越すと、4番・中野翔太君(11)が2塁適時打。5回裏にも3連打から敵失を誘い、一挙3得点で決着をつけた。

「攻め続けることが持ち味」と大野雅也主将(11)が語る通り、光ヶ丘は、2回裏を除く回で安打を記録した。2回裏にしても、四球で出塁すると、犠打で進塁、敵失から1点を挙げ大差につながった。「決勝も一丸となって攻め続けて勝ちたい」と意気込んだ。

四小地区は、なんとい

っても4試合完封の防御率、安定感抜群の投手陣を擁して勝ち上がった。準決勝は高柳サンダースとの一戦。3回までに4



四小地区抑えの梅沢君が力投

得点と打線が火を吹くと、先発の大橋暖太君(11)、中継ぎの佐藤信太朗君(11)、抑えの梅沢唯冬君(11)が完封リレーで寄せ付けなかった。「出来はよかった」と安部希主将(11)は振り返る。投手と内野手の安定感ある守備に加え、この日は走塁で揺さぶり、長打で得点に結びつけた。手応えがあるだけに、安部主将は「今日の内容を決勝でもやって、快勝したい」と強気だ。

決勝戦は、光ヶ丘の打線が爆発するか、四小地区が堅守で耐え抜くかに注目だ。